



# “新しい景色”～挑戦の2学期～

大空に向かって咲く「絆プロジェクト」のひまわり▶



夏休みが終わり、新学期が始まりました。

44日間の夏休み中には、総合体育大会（総体）やコンクール等の県・四国・全国大会が開催され、部活動や地域クラブでの豊中生の活躍が目立ちました。香川県の代表として、吹奏楽部、柔道部、陸上部、卓球部、水泳部が四国大会出場を果たし、さらに全国大会にも、柔道部をはじめ校外部の水泳、少林寺、男子バレーボール、カヌーが駒を進め、全国レベルの選手と肩を並べました。これは、例年を上回る大快挙です。

校内に目を向けると、韓国の陝川郡の中学生との国際交流（8.5）や、人権について語り合う中学生交流集会（8.17）での市内外の中高生との意見交流や、「はるかのひまわり絆プロジェクト」の活動などで、生徒会マナーアップリーダーズが中心になって確かな存在感を示してくれました。

＊ ＊ ＊

こうした豊中生の活躍を見て“新しい景色”という言葉が頭に浮かびました。この言葉は、FIFAワールドカップ2022において、サッカー日本代表が史上初の「ベスト8進出」を目指す言葉として用いられたものです。

しかし、日本代表チームは世界屈指の強豪を破って決勝トーナメントに進みながらも、前回大会の準優勝クロアチアに1対1の同点に追いつかれた末、PK戦で惜敗。悲願のベスト8にあと一歩届きませんでした。試合後のインタビューで、森保監督が選手とスタッフを集めて円陣を組み、次のように語ったのが印象に残っています。

ベスト16の壁は破れず、新しい景色を見ることはできなかったと言われるかも知れないが、ドイツやスペインというワールドカップで優勝した経験があるチームにも勝てるという“新しい景色”を見てくれた。（森保一）

この夏の豊中生のかつてない活躍もまた、私たち豊中の関係者に“新しい景色”を見てくれ、元気を届けてくれました。「井の中の蛙（大海を知らず）（※）」にならないように、自分の可能性を広げてくれるまだ見ぬ世界（未来）に向かって、挑戦を続ける2学期にしたいものです。

（※）井の中の蛙……（井戸の中にいるカエルは大きな海を知らないことから）広い世界があることを知らずに、自分のまわりのせまい範囲だけでものを考えていることのたとえ。



8月28日の四国新聞より▲

三告選手のプレー“三告の1ミリ”▼  
(2022FIFAワールド杯スペイン戦にて)

